

# ユーザーガイド

## Profoto D30



## 新しい Profoto 製品をご購入いただきありがとうございます。 とうございます。

新しいフラッシュやライトシェーピングツールを含む弊社の製品には、ほぼ半世紀に及ぶノウハウが蓄積されています。

長らく弊社が重視してきたのは、わずかな細部にもこだわるということです。わたしたちは、十分に自信の持てるものだけを Profoto の製品としてお届けしています。各製品は出荷前に、多岐にわたる徹底的な検査を受けており、一定水準の性能、品質、および安全性に適合していない製品は出荷されません。

こうして出荷された Profoto 製品は、お客様を長期的に支援できると確信しています。とはいえ、製品の購入はその過程のほんの始まりにすぎません。ライティングには多様な創意工夫が伴いますが、弊社では、あらゆるライティング方法、幅広いライトシェーピングツールと常に最新技術を取り込んだ製品を提供できることを誇りにしております。

ライティングの可能性は無限です。最初は戸惑うかもしれませんが、すぐにコツを掴めるでしょう。

弊社の Profoto アプリをダウンロードして MyProfoto アカウントに登録していただくと、Profoto デバイスの管理や、製品情報とアップデートを確認することができます。トップクラスの写真家によるライトシェーピングを理解するためのヒントやコツもお届けします。弊社の持つ 50 年を超えるライトシェーピングの経験を分かち合うことで、皆さんの成長のお役に立てれば幸いに思います。

ぜひ Profoto 製品をご活用ください。

Conny Dufgran (創業者)

# 一般的な安全上の注意事項



## 重要な安全情報と警告!

装置を操作する前に、必ずクイックスタートおよび安全ガイドとユーザーガイドをお読みください。クイックスタートと安全ガイドは常に確認できるところに保管してください。Profoto 製品はプロによる使用を目的としています。Profoto 製品は屋内での使用を想定して作られています。湿度や強い電磁場にとさらされる可能性のある場所、または可燃性のガスや粉塵のある場所に装置を置いたり、そのような場所で装置を使用したりしないでください。装置に水滴などがからまないようにしてください。花瓶など液体の入った容器を装置の上や近くに置かないでください。水や塵、ほこりなどのゴミが製品に混入した場合は、主電源ケーブルをコンセントから外してください。装置に触れないでください。Profoto サービスにお問い合わせください。装置を湿度が高い条件下で急激な温度変化にさらさないでください。本体内部で結露が発生する可能性があります。他のメーカーのライトを接続したり、ライトシェーピングツールを使用したりしないでください。付属の保護ガラスカバーまたは保護グリッドなしでフラッシュヘッドを使用しないでください。ひび割れや深い傷などで破損したガラスカバーは交換してください。ランプが損傷していたり、熱によって変形していたりする場合は交換してください。ランプをホルダーに取り付ける際は、素手でバルブに触れないように注意してください。必ず保護手袋を使用し、装置を冷ましてからランプを設置してください。ストロボ機材のメンテナンスを実施する際は必ず保護手袋と保護メガネを着用してください。製品ケースにひびが入った場合は製品の使用をただちに中止してください。電源プラグから配電ケーブルを引き抜いた後、Profoto サービスまでご連絡ください。フラッシュ製品に使用されるタイプのコンデンサは破損する可能性を排除することはできません。破損した場合、フラッシュ製品から煙とともに鋭い臭いが放出することがあります。この放出物が顔にかからないようにしてください。万が一放出物が目や口にかかった場合は水で洗い流してください。放出物は無毒です。電解液が皮膚に触れた場合は、水と石鹸で洗い流してください。電解質は口にしないでください。必ずジェネレーターやライトのハンドルを持って運んでください。コネクタやケーブルを持って運ばないでください。車などの高温または低温の環境に放置された製品を操作したり、主電源に接続したりしないでください。製品を承認された動作温度に到達させてからご使用ください。2m を超える高さで装置を取り付けたり使用したりしないでください。スタンドを使用するときは、必ず装置がしっかりと取り付けられていることを確認してください。ご使用の前にランプヘッドから輸送用キャップを取り外してください。閉所に設置しないでください。製品の周囲には常に換気のためのスペースを残し、換気口を覆わないでください。フィルター、拡散板などを装置の換気の給気口や排気口の上に置いたり、ガラスカバー、モデリングランプまたはフラッシュチューブの上に直接置いて換気を妨げないでください。製品を日光、熱源、火などの過度の熱にとさらさないでください。Profoto の製品は、写真や動画などの撮影のために提供されており、それ以外の用途は想定されていません。ユニットを掃除するには、中性洗剤で濡らせた柔らかい布で拭いてください。その後、別の柔らかい乾いた布で拭きとります。

## 警告 - 感電 - 高電圧



電源ジェネレーターは必ず保護アース接続のある電源コンセントに接続してください。ねじ込み式カバーを開けたり取り外したりすると感電する恐れがあります。本製品をご自分で修理しないでください。装置の点検、調整、修理は必ず公認の資格を持つサービススタッフのみが行うものとします。警告 - 稲妻のマークが付いた端子は感電の危険があります。装置は高電圧で動作します。フラッシュ、ジェネレーター、またはランプヘッドは、電源オフや電源ケーブルを取り外した場合でも、しばらくの時間は感電の危険があります。アンブレラの金属製の支柱をリフレクターの穴に差し込む際、モデリングランプやフラッシュチューブに触れないようご注意ください。電源プラグまたは電源接続器は遮断デバイスとして使用されます。遮断デバイスは常に操作可能な状態にしておく必要があります。フラッシュチューブやモデリングライトを交換する場合は、電源プラグから配電ケーブルを引き抜いた後、最低 10 分お待ちいただいた後から実施してください。装置を使用し終えたら、必ず電源コンセントから外してください。その際、ケーブルではなくプラグを持ってください。電源ケーブルを延長する場合は、家庭用の一般的な延長コードは決して使用しないでください。過熱する可能性があります。ご使用の前にコード巻き取りリールを必ず完全に引き出してください。正規の装置については Profoto 販売店にお問い合わせください。正常なフラッシュチューブおよび / またはモデリングライトなしに装置を操作しないでください。

**注意 - やけどの危険 - 高温部品**

高温の部品に素手で触らないでください。モデリングランプやフラッシュチューブを使用すると、特定の金属部品、フロントレンズ、ガラスカバーが使用時に強い熱を発する場合があります。どのランプもごくまれに爆発し、高温の破片が飛び散ることがあります。モデリングランプやフラッシュチューブを人に向ける場合は近づけすぎないようにしてください。

**警告 - 大きな音**

装置から突然大きな音がする可能性があります。聴覚保護具を使用するか、ジェネレーターとユーザー/その他周囲の人との間に34 cm (13 inch) 以上の最低安全距離を取ってください。

**注意**

本製品から有害の可能性のある光線が放射されます。動作ランプを直視しないでください。目を傷める恐れがあります。フラッシュが発光されることを予期していない被写体や重機操作中の人、または予期しないフラッシュにより怪我や危害を引き起こす可能性のある活動を行っている人に向けてフラッシュを発光しないでください。遠く離れた場所からリモートでフラッシュがトリガーされることもありますので注意してください。

**NOTICE RFに関する注意事項!**

この装置は無線周波数帯を利用し、無線周波エネルギーを発生させます。デバイスの動作は現地の規制に従っていることをご確認ください。本デバイスが使用する周波数帯が他のユーザーによって使用中であることも考えられます。そのため、干渉の可能性を排除することはできません。規制や法令は随時変更されるので、最新のファームウェアとインストラクションを使用していることを確認し、ルールや規制に準拠していることを徹底してください。ファームウェアは、Profoto アプリを使ってアップデートできます。RF 被曝規制に基づき、エンドユーザーは通常の操作においてデバイスの20 cm 以内に近づかないでください。



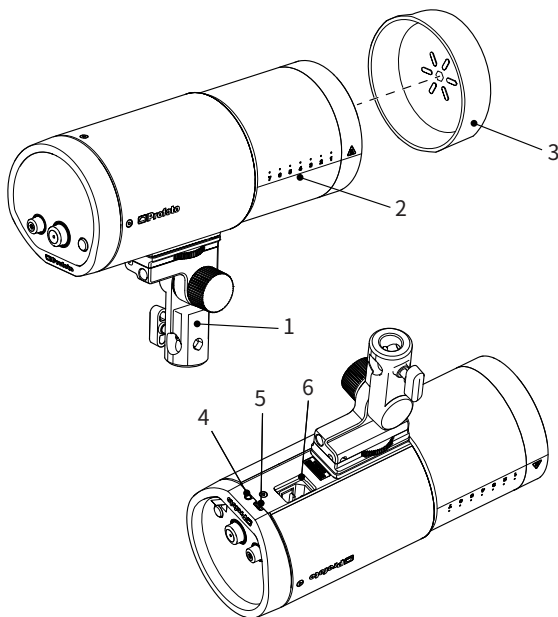
# 目次

一般的な安全上の注意事項.....	4
各部名称 .....	9
はじめに.....	11
安全義務.....	11
ユニットの電源を入れる .....	12
製品登録とファームウェアアップデート .....	12
スタンドアダプターを取り付ける.....	13
ライトスタンドに設置する .....	14
Profoto ライトシェーピングツールを取り付ける.....	15
基本的な操作 .....	17
電源オン/オフ.....	17
インジケーター .....	17
フラッシュの出力を調整する .....	18
定常光を調整する .....	18
D30 ユニットの状態.....	20
設定 .....	22
Air Group (Air グループ) .....	22
Air channel (Air チャンネル) .....	22
Air .....	23
Bluetooth .....	23
IR シンク口.....	23
フラッシュモード.....	23
Continuous light (定常光) .....	24
一般設定.....	25
接続 .....	27
Profoto リモートとの接続を設定する .....	27
Profoto アプリ.....	28
メンテナンス .....	29
お手入れ方法.....	29
フロントガラス、フラッシュチューブを交換する .....	29

その他 .....	31
過熱保護 .....	31
シリアル番号 .....	31
技術仕様 .....	32
保証 .....	34
クレジット .....	34

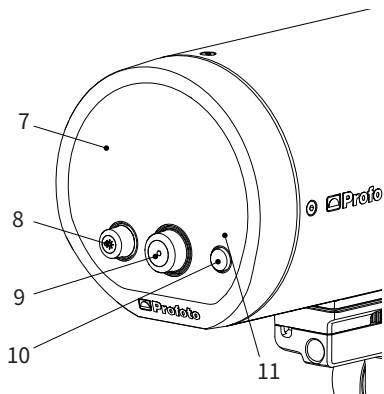


# 各部名称

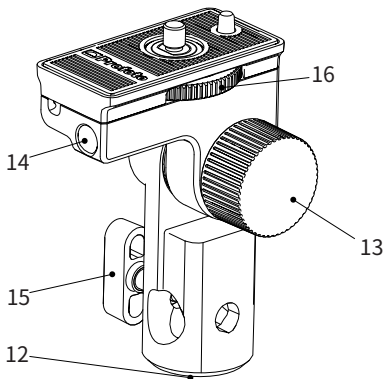


1. スタンドアダプター
2. ズームスケール
3. 輸送用保護キャップ

4. 同期ポート
5. USB
6. 電源接続



- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 7. ディスプレイ     | 10. テスト&ON/OFF ボタン |
| 8. 定常光ライトダイヤル | 11. スタンバイLED       |
| 9. メインダイヤル    |                    |



- |                  |              |
|------------------|--------------|
| 12. スタンドスタッドマウント | 15. クランプねじ   |
| 13. チルトロックノブ     | 16. 取付ねじホイール |
| 14. アンブレラホルダー    |              |

# はじめに

## 安全義務

### フラッシュ装置安全概要

#### 輸送時の取扱いについて

キャップを取り付けてプラグを抜く：輸送の前に、本機の電源を切り、輸送用キャップを取り付け、コンセントから抜き、該当する場合はバッテリーを取り外してください。

安全な輸送のために：輸送中の損傷を防ぐため、必ず付属のケースを使用してください。

#### ご使用前に：

検査してください：コンセントに差したり、バッテリーを挿入したりする前に、本体とフロントガラスに亀裂がないか確認してください。

#### 機材が破損した場合

使用を中止し、電源を切る：感電の危険を避けるため、本体やフロントガラスに亀裂がある場合は、直ちに使用を中止し、コンセントから抜き、バッテリーを取り外してください。内部部品には触れず、Profoto サービスまたは認定サービスセンターにお問い合わせください。

#### 高電圧警告

保持電圧：本機の電源を切り、バッテリーを外し、またはコンセントから抜いても、内部の高電圧は最長 10 分間保持されます。ユーザーガイドとクイックスタートおよび安全ガイドをよく参照せずに、フロントガラスを外したり、内部の部品に触れたりしないでください。

#### セルフメンテナンス

メンテナンスに関する注意：フロントガラスやフラッシュチューブの交換など、セルフメンテナンスが認められている作業については、ユーザーガイド、そしてクイックスタートおよび安全ガイドをしっかりと参照し、保護具を着用して行ってください。

#### 修理

正規サービスのみ：基本的なセルフメンテナンスを超える修理は必ず、認定されたサービス担当者におまかせください。サポートについては、Profoto サービスまたは認定サービスセンターにお問い合わせください。

D30 の使用を開始する前に、本ユーザーガイドのほか、クイックスタートおよび安全ガイドをお読みいただく必要があります。製品を安全に操作していただくための重要情報や、規制に関する重要情報が記載されています。クイックスタートおよび安全ガイドの印刷版が、D30 とともに提供されています。多くの言語に翻訳されています。また、このユーザーガイドのダウンロード元にも用意されています。

## ユニットの電源を入れる

1. 電源ケーブルコネクタを D30 背面の電源接続部に接続します [6]。
2. 電源ケーブルを主電源に接続します。

D30 ユニットが起動し、ディスプレイが点灯します。

## 製品登録とファームウェアアップデート

製品を初めて使用する前に、製品を登録し、最新バージョンに更新されていることをご確認いただく必要があります。下の QR コードをスキャンするか [profoto.com/setup](https://profoto.com/setup) にアクセスして、必要な手順に従ってください。

**Register your light  
for extra warranty**

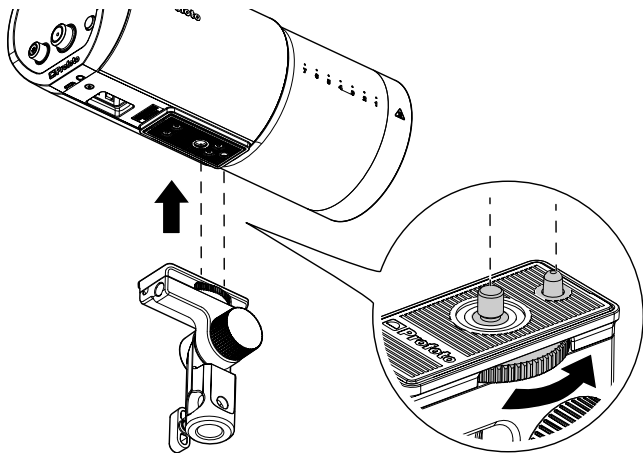


[profoto.com/setup](https://profoto.com/setup)

## スタンドアダプターを取り付ける

スタンドアダプターを D30 のスタンドアダプター取付位置に取り付けます。

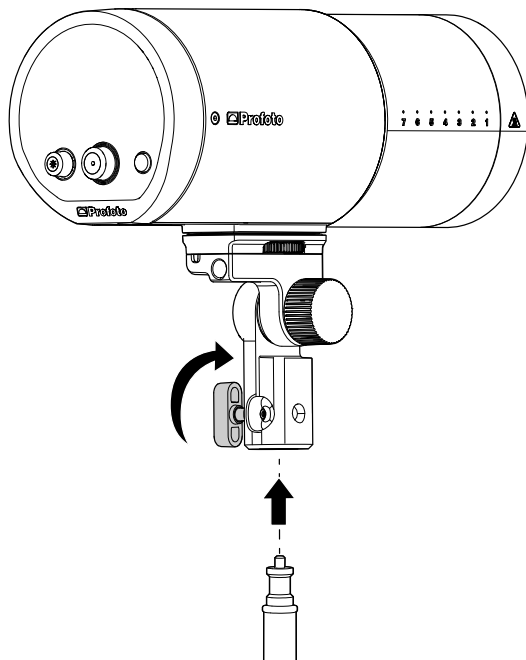
1. 取り付ける前にスタンドアダプターの位置調整ピンがD30の位置調整ピンの穴にはまることを確認します。
2. 取付ねじホイール [16] を使用して、スタンドアダプターが固定されるまで取付ねじを締めます。



## ライトスタンドに設置する

D30 をライトスタンドに取り付ける前に、スタンドアダプターを取り付ける必要があります。スタンドアダプターを取り付けた後、以下の手順に従ってください。

1. スタンドアダプターをライトスタンドに取り付け、クランプネジ [15] で固定します。
2. チルトロックノブ [13] をゆるめて、チルトポジションを調整します。
3. チルトロックノブ [13] を締めてチルトポジションを固定します。



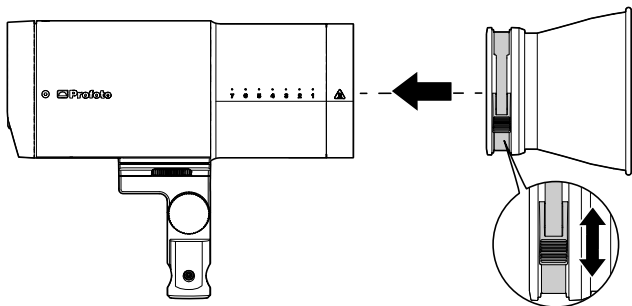
## Profoto ライトシェーピングツールを取り付ける

D30ユニットにはリフレクターが内蔵されており、高出力で広く均一な光の広がりを実現します。さらに本ユニットは120種類以上のProfotoライトシェーピングツールに対応しています。これらのツールを使うことで、多種多様な性質の光を作り出すことができます。

### 標準的なリフレクターマウント(留め具のあるゴム製カラー)でツールを取り付ける

ほとんどのリフレクターには Profoto の独自のクランプ機構が搭載されています。このため、簡単に取り付けられる上、本ユニットでズームスケール [2] に沿ってリフレクターを前後にスライドさせるだけで光を形成できます。

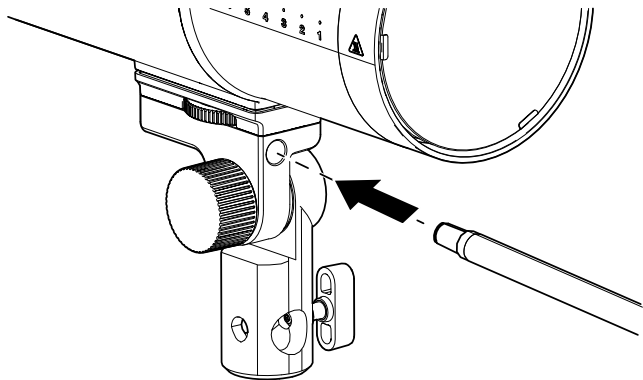
1. リフレクターの留め具をロック解除します。
2. リフレクターをスライドさせ、D30の上に動かします。リフレクターの位置を覚えておけるようにズームスケール [2] を使います。
3. リフレクターの留め具をロックしてリフレクターを固定します。



## アンブレラを取り付ける

アンブレラホルダーはスタンドアダプターに統合されています。アンブレラは、アンブレラホルダー [14] 内にアンブレラシャフトをスライドさせると、容易に取り付けられます。アンブレラホルダーにはめるには、アンブレラシャフトの直径は7mm~8mmでなくてはなりません。

1. ユニットにスタンドアダプターを取り付けます。
2. アンブレラシャフトをスライドさせ、摩擦を感じる場所を通過してアンブレラホルダー [14] に入れます。
3. 引き続き、アンブレラシャフトをアンブレラがご希望の位置になるまでアンブレラホルダー [14] の中でスライドさせます。





## 基本的な操作

### 電源オン/オフ

1. 電源を入れるには、テストボタン [10] を押してください。
2. 電源を切るには、テストボタン [10] を長押しします。

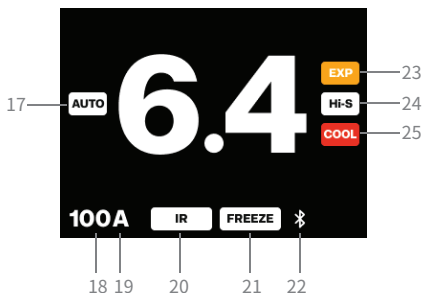
ユニットのスイッチをオフにすると、現在の設定が保存され、ユニットのスイッチが再度オンになったときに適用されます。

### 注

一定時間操作がないと、本機は自動的にスリープ状態に入ります。スリープ機能の休止時間は、設定メニューで選択できます。

17

### インジケータ



- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 17. オート (TTLフラッシュ更新) | 22. Bluetooth        |
| 18. Channel (チャンネル)  | 23. 露出の警告            |
| 19. Group (グループ)     | 24. HSS (ハイスピードシンクロ) |
| 20. IRスレーブ           | 25. 過熱保護             |
| 21. フラッシュモード         |                      |

## フラッシュの出力を調整する

フラッシュ出力設定の数値は、大きな太字でディスプレイ [7] に表示されます。出力スケールは 0.1～10 の相対的な f-stop スケールです。最大出力は 10 として表示されます。

フラッシュ出力を変えるにはメインダイヤル [9] を使用します。

- メインダイヤル [9] を回すと、出力を 1/10 f-stop ごとに換えられます。
- メインダイヤル [9] を押して回すと、出力を 1 f-stop ごとに換えられます。
- テストボタン [10] を押すと、フラッシュをテスト発光できます。

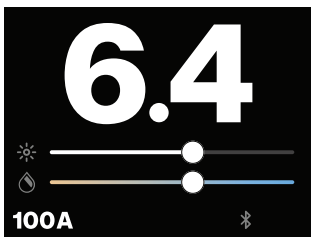
## 定常光を調整する

定常光は設定メニューで「FREE (フリー)」または「PROPORTIONAL (比例)」(工場出荷時設定) に設定できます。

1. 「FREE (フリー)」に設定すると、フラッシュ出力とは別に定常光の明るさを調整できます。
2. 「PROPORTIONAL (比例)」に設定すると、定常光の明るさは常にフラッシュ出力に比例します。

## 「FREE (フリー)」設定時に定常光を調整する

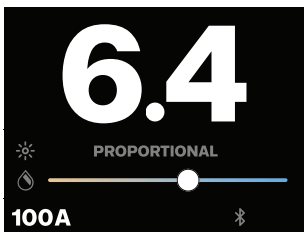
1. 定常光ダイヤル [8] を押すと、定常光をオンまたはオフにできます。
2. 定常光がオンの場合、明るさと色温度は2つの別個のバーでディスプレイに示されます。



3. 定常光ダイヤル [8] を回すと、明るさを変更できます。

## 「PROPORTIONAL (比例)」設定時に定常光を調整する

1. 定常光ダイヤル [8] を押すと、定常光をオンまたはオフにできます。
2. 定常光がオンの場合、明るさと色温度は以下のように表示され、モード表示は「PROPORTIONAL (比例)」となります。



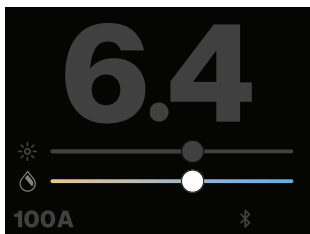
3. メインダイヤル [9] を回して光の強さを変更します。これにより、フラッシュと定常光が比例して変更されます。

### 注

プロポーショナルモードで定常光の明るさを変更する場合、出力の設定はそれに従います。

## 色温度を調整する

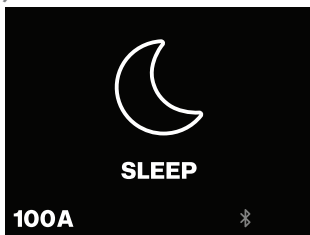
1. 定常光ダイヤル [8] を押し回すと、色温度を変更できます。



## D30 ユニットの状態

これまで説明してきた通常の動作状態に加えて、本ユニットには 3 つの状態があります。

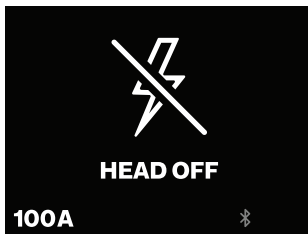
### Sleep (スリープ)



一定時間操作がないと、本機は自動的にスリープ状態に入ります。スリープ機能の休止時間は、設定メニューで選択できます。定常光が点灯している場合、本機はスリープ状態になりません。

スリープ状態では、電力を節約するために特定の機能とバックライトがオフになります。ただし、AirおよびBLE (Bluetooth Low Energy) 接続は有効な状態を保ちます。手動、アプリ経由、またはProfotoリモート経由で何らかの操作が行われると、ユニットは通常の状態に戻ります。

## Head off (ヘッドオフ)



本機は、リモートまたはアプリのいずれかから「Head off (ヘッドオフ)」を選択することによってのみ、「ヘッドオフ」状態に入ることができます。ヘッドオフ状態では、フラッシュ機能と定常光はオフになります。

リモコンやアプリから「ヘッドオン」を選択するか、本体のいずれかのボタンを押すか、ノブ/ホイールを回すと、通常の状態に戻ります。通常の状態に戻ると、ユニットは「ヘッドオフ」状態が作動する前と同じフラッシュエネルギーと定常光設定に戻ります。

## Mobile Capture (モバイル撮影)



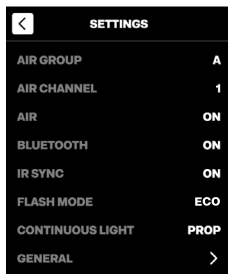
本機がカメラビューがアクティブな状態で Profoto Camera App に接続されると、「Mobile Capture (モバイル撮影)」状態になります。

この状態では、出力調整や定常光の点灯はできません。メインダイヤル [9] を押して設定メニューにアクセスし、テストボタン [10] を押すと、カメラが写真を撮影します。Profoto Camera App でカメラビューを解除すると、ユニットは通常の状態に戻ります。

## 設定

D30 の設定はすべて、設定メニューからアクセスして選択します。

1. メインダイヤル [9] を押して設定メニューに入ります。



2. メインダイヤル [9] を回すと、設定メニューをスクロールできます。
3. 設定を変更するにはメインダイヤル [9] を押ししてください。一部の設定ではサブメニューが表示されます。
4. 前のメニューに戻るには、定常光ダイヤル [8] を押すか、メニューの最上部で左向き矢印の記号を選択してください。
5. メイン画面に戻るには、テストボタン [10] を押します。

### Air Group (Airグループ)

「AIR GROUP (Airグループ)」の設定を使うと、Profoto Air でワイヤレス管理したいグループ (A～F) を選択できます。工場出荷時の設定はグループ A です。

#### 注

「AIR GROUP (Air グループ)」の設定は、「AIR」が「ON (オン)」になっている場合にのみ選択できます。

### Air channel (Airチャンネル)

「AIR CHANNEL (Air チャンネル)」の設定を使うと、Profoto Air を使ってワイヤレスにトリガーしたいチャンネル (1～100) を選択できます。工場出荷時の設定はチャンネル 1 です。

#### 注

「AIR CHANNEL (Air チャンネル)」の設定は、「AIR」が「ON (オン)」になっている場合にのみ選択できます。

## Air

「AIR」設定を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定すると、Profoto Air ワイヤレス機能を有効または無効にできます。Air を有効にすると、設定されたチャンネルとグループ (たとえば「1A」) がディスプレイ [7] の左下に表示されます。工場出荷時の設定は「ON」です。

## Bluetooth

「BLUETOOTH」の設定を使用すると、Profoto アプリの接続性を管理できます。「Profoto アプリの接続性」セクションを参照してください。工場出荷時の設定は「ON」です。

- ON (オン) : Bluetooth が有効になり、Profoto アプリに接続できません。
- CONNECTED (接続) : ユニットの Profoto アプリに接続されています。
- OFF (オフ) : Bluetooth 接続が解除されます。

### 注

本機が CONNECTED (接続) の場合のみ、DISCONNECT (接続解除) オプションが選択可能となります。

## IR シンクロ

「IR Sync (IR シンクロ)」設定を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定して、赤外線スレーブセンサーを有効または無効にすることができます。工場出荷時の設定は「OFF (オフ)」です。

### 注

他のトリガー方法 (「AIR」など) を使用する場合は「IR Sync (IR シンクロ)」を「OFF (オフ)」に設定するよう強くお勧めします。

## フラッシュモード

「FLASH MODE (フラッシュモード)」の設定を利用すると、閃光時間優先モードまたは色温度安定性優先モードを選択できます。3 つの設定から選択できます。ECO、BOOST、FREEZE モード工場出荷時の設定は「ECO」です。

- ECO (エコ) : (ディスプレイにインジケータは表示されません) ECO モードは、ほとんどの使用例で推奨されるデフォルト設定です。このモードでは、色温度の一貫性が最適化され、機器の寿命を最大化します。

- **BOOST (ブースト)** : ディスプレイに BOOST インジケーターが表示されます  
BOOST モードは、ECO フラッシュモードに類似しますが、最大出力が少し高められています。一般的に、BOOST モードは追加のフラッシュ出力が必要な場合にのみ一時的に使用することが推奨されます。
- **FREEZE (フリーズ)** : FREEZE インジケーターがディスプレイに表示されます  
FREEZE モードは、飛び散る液体や粉体をブレなく撮影するために、極めて短いフラッシュ時間が必要な場合に便利です。FREEZE モードでのフラッシュ色温度は、ECO および BOOST モードと比較して、出力範囲全体でより大きく変化するのでご注意ください。

#### 注

フラッシュのモード設定は、カメラの X-Sync 範囲内のシャッタースピードでフラッシュを使用する場合にのみ適用されます。ハイスピードシンクロを使用した短いシャッタースピードで撮影する場合は、3つの設定による違いはありません。

本書の「仕様」セクションで「ECO (エコ)」と「BOOST (ブースト)」、「FREEZE (フリーズ)」のフラッシュ時間を比較していますのでご確認ください。

## Continuous light (定常光)

「CONTINUOUS LIGHT (定常光)」設定では、定常光の強さを調整する方法を定義します。2つの設定から選択できます。工場出荷時の設定は「PROP (比例)」です。

- **PROP (比例)** : 定常光の強さは常にフラッシュ出力の設定に比例します。この設定は、定常光をモデリングライトとして使用する際にお勧めします。
- **FREE (フリー)** : 定常光の強さは、フラッシュ出力の設定とは関係なく設定できます。この設定は、定常光をビデオライトとして使用する際にお勧めします。

#### 注

「PROP (比例)」または「FREE (フリー)」のいずれかを選択した際に定常光を調整する方法については、「定常光を調整する」セクションをご覧ください。



## 一般設定

### Ready signal (充電完了信号)

「READY SIGNAL (充電完了)」の設定では、フラッシュ発光後に完全にリサイクルされ、再びフラッシュ発光の準備が整ったことを本機で示す方法を設定します。4つの設定から選択できます。工場出荷時の設定は「SOUND (サウンド)」です。

- SOUND (サウンド) : リサイクルしてフラッシュの準備が整うと、本機からピーツという音が鳴ります。
- DIM (ディム) : フラッシュの後で定常光はオフになり、本機がリサイクルしてフラッシュの準備が整うとオンになります。
- SOUND & DIM (サウンドとディム) : 本機はサウンドとディムの両方で信号を出します。
- OFF (オフ) : 本機は、フラッシュの準備ができたことを示す信号を出しません。

#### 注

テストボタンは発光後必ずオフになり、本機の充電が完了すると再びオンになります。

### Control Sounds (サウンドのコントロール)

「CONTROL SOUNDS (サウンドのコントロール)」を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定すると、コントロールノブとボタンのサウンドを有効または無効にできます。工場出荷時の設定は「ON」です。

### Warning sounds (警告音)

WARNING SOUNDS (警告音) を「ON (オン)」または「OFF (オフ)」に設定すると、誤露出アラーム音を有効または無効にできます。工場出荷時の設定は「ON」です。

#### 注

EXP インジケーターは、警告音設定にかかわらず、誤露出アラームが作動する際には必ずメニューディスプレイ [7] に一時的に表示されます。

### Display brightness (ディスプレイの明るさ)

「DISPLAY BRIGHTNESS (ディスプレイの明るさ)」の設定を使用すると、ディスプレイの明るさを設定できます。3つの設定から選択できます。工場出荷時の設定は「AUTO (自動)」です。

- AUTO (自動) :

- MAX (最大)
- MEDIUM (中)
- LOW (低)

### Auto Sleep (オートスリープ)

「AUTO SLEEP (オートスリープ)」の設定では、本機がバッテリーを節約するためにスリープモードに入るまでの待機時間をタイマーで設定します。4 つの設定から選択できます。工場出荷時設定は「30 MIN (30 分)」です。

- 5 MIN (5分) : 5分間操作しないとスリープモードに入ります。
- 30 MIN (30分) : 30分間操作しないとスリープモードに入ります。
- 1 HOUR (1時間) : 1時間操作しないとスリープモードに入ります。
- NEVER (そのまま) : スリープモードに入ることはありません。

### Auto off (自動 OFF)

「AUTO OFF (自動 OFF)」設定は、ユニットが主電源に接続されたときの動作を決定します。工場出荷時は「1 HOUR (1時間)」になっています。

- 15 MIN (15分)
- 1 HOUR (1時間)
- NEVER (そのまま)

### Display orientation (表示方向)

DISPLAY ORIENTATION (表示方向) の設定により、本機の情報表示方向を変更します。3 つの設定から選択できます。工場出荷時の設定は「AUTO (自動)」です。

- AUTO (自動) ディスプレイの向きは、ユニットの向きに基づいて自動的に調整されます。
- NORMAL (ノーマル)
- REVERSED (逆転)

### ユニット統計

「UNIT STATS (ユニット統計)」セクションには、生涯累積ユニット統計が表示されます。「Flash count (フラッシュカウント)」はトリガーされたフラッシュの数、「Runtime (ランタイム)」は動作時間、「Power-on count (パワーオンカウント)」はセッション数を表わします。

## About (概要)

「ABOUT (概要)」セクションには、シリアル番号やハードウェア、インストールされているファームウェアなど、ユニットに固有の情報が表示されます。

## Regulatory info (規制情報)

このセクションには、規制に関する情報が表示されます。

## Factory reset (出荷時の設定に戻す)

「FACTORY RESET (初期設定にリセット)」を使用すると、あらゆる設定が工場出荷時の設定にリセットされます。

27

## 接続

D30にはProfoto AirX接続が内蔵されています。AirXは、AirとAirTTLに続く第3世代のProfoto無線接続です。

AirXは以下をサポートしています。

- Profoto Air/AirTTL 対応リモートでの無線 Air/AirTTL 機能。
- AirX対応Profoto リモートおよびアプリでの専用 AirX 機能。

## Profoto リモートとの接続を設定する

以下は D30 での基本的な設定手順のみ記載しています。詳細な操作手順については、お使いの Profoto リモートのユーザーガイドを参照してください。

1. D30 設定メニューで Air を ON に設定します。
2. D30 設定メニューで、Profoto リモートで設定したチャンネルと同じものを選択します。
3. D30 設定メニューでグループ (A~F) を割り当てます。

## Profoto リモート使用時のオート (TTL)

オート (TTL) の場合、Airチャンネルとグループ設定が完了していれば、本機での特別な設定は必要ありません。お使いのProfotoリモートでオート (TTL) とマニュアル (MAN) を切り替えて、リモートがフラッシュを自動で調整するかマニュアルでコントロールするかを選択するだけです。

D30 は、リモートをマニュアル (MAN) に切り替えた場合、オート (TTL) で設定した出力を維持します。これにより、いわば「露出計」としてオート (TTL) をマニュアル調整の開始点に利用することができます。

リモートによりオート (TTL) が有効になると、**AUTO** インジケーターがディスプレイ [7] に一時的に表示されます。

リモート上でオート (TTL) グループ調整がされていると、オフセットを含めて **AUTO** インジケーターがディスプレイ [7] に一時的に表示されます。

## 28

### Profoto リモート使用時のハイスピードシンクロ (Hi-S)

ハイスピードシンクロ (Hi-S) の場合、Air チャンネルとグループ設定が完了していれば、本機での特別な設定は必要ありません。ハイスピードシンクロはリモートまたはカメラで有効化されます。

リモートによりハイスピードシンクロが有効になると、**Hi-S** インジケーターがディスプレイ [7] に一時的に表示されます。

### Profoto アプリ

Profoto アプリでは、新機能を継続的にアップデートしています。また、D30 の最新機能のアップデートやバグ修正も、アプリからアクセスできます。

Profoto アプリのメリットの一部を紹介します。

- 簡単な登録とアップデート。購入製品を登録して簡単に D30 の最新アップデートを入手できます。
- スマートなリモートコントロール。スマートフォンの画面から D30 をコントロールできます。
- スマートフォンカメラでの撮影。スマートフォンでの写真撮影に本物のフラッシュを利用いただけます。

Profoto アプリは、App Store、Google Play から入手できます。Profoto アプリの詳細については、Profoto.com をご覧ください。

Profoto アプリを D30 に接続するには、Bluetooth を有効にする必要があります (Bluetooth のセクションをご覧ください)。次に Profoto アプリを起動してアプリ内の指示に従います。

# メンテナンス

## お手入れ方法

ユニットを掃除するには、中性洗剤で湿らせた柔らかい布で拭いてください。その後、別の柔らかい乾いた布で拭きとります。

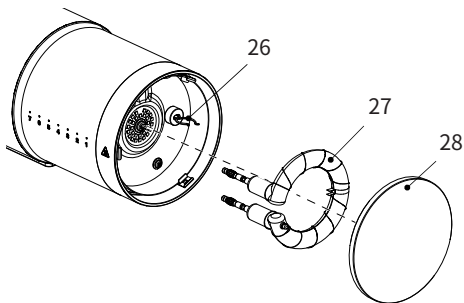
## フロントガラス、フラッシュチューブを交換する

### 警告 - 感電 - 高電圧

電源コードを外し、内部高電圧を放電させるため、少なくとも 10 分待ってから保護フロントガラスを取り外してください。フラッシュチューブおよび/またはフロントガラスを交換する際は、必ず保護手袋と保護メガネを使用してください。ガラスにひびが入っている場合は、絶対にフラッシュチューブに触れたり、交換しようとしたりしないでください。

フラッシュチューブを取り外す：

1. フロントガラスシート [28] をそっと押しながら、小さなマイナスドライバー（または同様のもの）を使って片方のガラススプリングを金属シリンダーに向けて押し、取り外します。
2. シートメタルリボンを広げ、ペンチ（または同様のもの）でフラッシュチューブのスプリング [26] を挟みます。
3. フラッシュチューブ [27] の後ろにケーブルタイ（または同様のもの）を挿入します。
4. ケーブルタイを使用してフラッシュチューブ [27] を引き出します。



26. フラッシュチューブ・スプリング    28. フロントガラス

27. フラッシュチューブ

フラッシュチューブを追加する：

1. フラッシュチューブのコンタクトピンを、突出した白いソケットに挿入します。損傷の危険を避けるため、フラッシュチューブの脚の上のガラス面に手で圧力をかけてください。フラッシュチューブ [27] を底まで押し込みます。フラッシュチューブ・スプリング [26] がリボン内を通過していることを確認します。
2. フラッシュチューブ・スプリング [26] の周りのリボンをつまみ、ガラスの方に折ります。
3. ガラスシート [28] を2つのスプリング面に置き、両方の部分で挟まれるまで押します。フロストガラスの表面は外側に向けます。フロストガラスの表面を内側に向けると、ガラスに焦げ跡がつくことがあります。ドライバーを使用して3つ目のスプリングを金属シリンダー側に押し付け、ガラスシート [28] をすべてのスプリングの間に入るまで内側に押し込みます。

## その他

### 過熱保護

本機が内蔵過熱保護機能が有効になる温度レベルに達すると、温度制限インジケータがディスプレイ [7] のメイン画面に表示されます。この場合、温度が許容可能なレベルに戻るまでパフォーマンスが制限されません。

### シリアル番号

シリアル番号は、本体下部の電源接続部 [6] の横に印刷されています。また、ディスプレイ [7] で「SETTINGS (設定)」>「GENERAL (一般)」>「ABOUT (概要)」と進んで確認することもできます。

## 技術仕様

---

モデル名	D30
Regulatory model (規制モデル)	PCA1610
動作温度	0°C - +35°C / +32°F - +95°F
保管温度	通常の室内環境で保管
入力電源	AC 100-240V、50/60Hz、クラス I 、最大 1100W、最大 6.5A
動作周波数と無線出力電力 (Air および Bluetooth Low Energy)	2402-2480 MHz、<10 dBm EIRP

---

技術仕様の詳細については、[Profoto.com](http://Profoto.com) をご覧ください。



D30		閃光時間					
		ECO(エコ)		BOOST (ブースト)		FREEZE (フリーズ)	
エネルギー (スケール)	エネルギー (Ws)	t0.1(s)	t0.5(s)	t0.1(s)	t0.5(s)	t0.1(s)	t0.5(s)
		10	500	1/300	1/900	1/300	1/900
9	250	1/350	1/1100	1/350	1/1100	1/1000	1/1100
8	125	1/700	1/1200	1/700	1/1200	1/1900	1/2600
7	62.5	1/800	1/1300	1/800	1/1300	1/3100	1/5400
6	31.3	1/1100	1/1600	1/1200	1/1600	1/4400	1/8800
5	15.6	1/1600	1/3000	1/1700	1/3000	1/5600	1/12000
4	7.8	1/1900	1/3500	1/2000	1/3500	1/6900	1/15000
3	3.9	1/2600	1/5000	1/2600	1/5000	1/8300	1/18000
2	2.0	1/3800	1/8000	1/4000	1/9000	1/8500	1/19000
1	1.0	1/4800	1/10000	1/5300	1/12000	1/9000	1/20000
0.1	0.5	1/5000	1/10700	1/6200	1/13800	1/9800	1/21100

技術仕様の詳細については、Profoto.com をご覧ください。

## 保証

Profoto によって、または Profoto のために製造され、Profoto の商標、名称、またはロゴが付されたすべてのジェネレーター、ヘッド、およびリモートコントロールは、出荷前に個別にテストされ、保証条件に記載された例外を除き、2 年間保証されます。製品に技術的な問題がある場合は、公認 Profoto サービスステーションに連絡するか、次のサイトをご確認ください：<https://profoto.com/support/warranty>

## クレジット

App Store は、米国および他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。

Google Play および Google Play のロゴは、Google LLC の商標です。

Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。Profoto による当該マークの使用はすべて、ライセンスに基づいて行われています。

USB Type-C および USB-C は USB Implementers Forum の登録商標です。

その他の商標と商品名は各所有者の所有物です。



Profoto AB  
Box 1264,  
17225 Sundbyberg  
Sweden

+46 (0) 8447 53 00  
info@profoto.com  
www.profoto.com

 **Profoto**

技術データと製品情報は予告なく変更される場合があります。

2024年8月 M0008464-001 00. スウェーデンにて印刷。